

## 令和4年度第1回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】 令和4年5月26日（木）

午後2時～午後3時30分

【会場】 高根ふれあい広場・中郷館 2階ホール

### 1 出席者

発言者：御殿場市において様々な分野で活躍中の方

3名（男性1名、女性2名）

### 2 発言意見

番号	分野	項目	頁
発言者1	ボランティア	子ども食堂による地域支援	3、17
2	観光、関係人口	関係人口との交流の場の創出	5、17
3	福祉、防災	福祉と防災の連携、御殿場市消防団の取組	11、20

【川勝知事】 今日、御殿場市民の皆様方、平日の忙しいところ、知事広聴会にお越しいただきまして誠にありがとうございます。

この広聴会というのは70数回やっております。そして昨年、知事選挙がございまして、そして、なるべく早くこちらに来るようにという市長さん・議会からのご要望がありました。感染等の影響もありまして、中々難しくようやく実現ができました。私の御殿場コシヒカリ発言、これが多くの人に不快な思いを抱かせてしまったということは、誠に申し訳ないと思っております。申し訳ございませんでした。

これまで私は55回、御殿場に足を運んでおります。去年、一昨年は新型コロナウイルスにより、ほとんどの所に行けなかったんですけど、10年余りで55回ですから、年間5回余り来ていたわけですが、ここ（高根ふれあい広場）は初めて来ました。

先ほど市長さんにここを見せていただいて、本当に素晴らしい所だと。ここは田園でしょう。カーテンを開けてみるとお庭があって、向こうには小学校があり、いい環境だなと思えました。反対側の窓を開けてみると、なんと能舞台を大きくしたようなものがあり、その向こうに足柄山や箱根があると。右側の方には大きな運動場があって、400メートルのトラックができるんだということで、素晴らしい環境だなと思った次第です。ここにいられたことを大変喜んでる次第です。しかも、ホールが入り口からそうだけれども、文化度が高いというのが見てすぐに分かります。

そうした所で今日は市の代表の皆様方のお話を承ると。これは広聴会ですから、私が喋るのではなく広く聴くということで、聞きっぱなしにしないということがこれまでの広聴会の原則です。お聞きしたことは、良いことは全部実行するというので、それからここで何かお尋ねがあった時、お答えできることはここでお答えいたしますが、答えられないものもあるかもしれません。その場合は一旦持って帰り、必ずそれはお答えするというふうにして、一度もそれを怠ったことがありません。これは、広聴を通じて、御殿場の市政等々に役に立ちたいと考えています。

前市長の時にエコガーデンシティというのを駒門が指定されて、その後平成30年ごろに全体をエコガーデンシティとしていくということでした。

数日前に、SDGs未来都市として、御殿場市が選出されました。今SDGsを知らない自治体はございません。静岡県下35市町すべてそうです。数日前に朗報が入ってきたのですが、これは突然出てきたものではなく、これまでの御殿場市の皆様方の市を

よくするための、誰も取り残さないという運動の結果ではないかということです。これをきっかけにさらに大きく発展するのではないかということです。

この間、新東名高速道路新御殿場 IC につなぐ道ができて、もちろん御殿場市の方も喜びましたが、一番喜んだのが山梨県の人です。そして、中部横断自動車道が、4 か月後の 8 月 29 日に西側が開通いたしました。さらに富士五湖道路も開通したということで、交通の便が非常に良くなったということです。まさにガーデンシティそのものだと思います。ガーデンシティというのは日本語に訳しますと田園都市です。これは 100 年ほど前に、日本の内務省がガーデンシティをどう翻訳するかという時に、自然と便利さが一体のものをガーデンシティというのですが、花園都市などの訳もありましたが、田園都市と訳したということです。事実、ここはガーデンシティではないかと思えます。

そういうことで、ここから学ぶことが大変多いのではないかと直感がございます。

それをしっかりと学んで、皆様方のお役にも立ち、県政にも活かしていきたいとの思いで本日は参りましたので、何卒よろしくお願い申し上げます。

**【発言者 1】** 初めまして。「はらぺこ食堂」の代表、発言者 1 と申します。この度はこのような会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

私たち「はらぺこ食堂」は御殿場市では初めてということで、2018 年 10 月からスタッフ 3 名、ボランティア約 10 名で、ぶらっと来て参加者全員が笑顔、スマイルになってほしいという願いから「ブルスマ委員会」と命名し、毎月 1 回子ども食堂を開催しております。

子ども食堂を始めたきっかけとしては、仕事で生活困窮者や引きこもりの方、障害をお持ちの方などの支援に従事させていただいておりまして、私たちにも何かできることがあるのではないかという思いで始めさせていただきました。

子ども食堂とは、一般的に地域住民や自治体が主体となり、無料または低額価格帯で子どもたちに食事を提供するコミュニティの場を指していますが、やり方に正解はなくそれぞれ個性があっているのではないかと考えております。

「はらぺこ食堂」が大切にしていることは、地域や年齢など制限を設けず、どなたでも大歓迎、また食事だけではない体験の場を企画・運営しております。今までには、そば打ち体験、木材を使った D I Y、鏡餅や桜餅作り、ホットケーキやピザ作り、ろうそ

く作り、干し芋作り、また元板前さんに来ていただき、魚さばき体験など楽しんでいただけるとの企画してきました。

また、コロナ禍の中でも続けられることを模索し、2021年からは屋内から屋外へと活動を徐々に切り替えし、地元の農家さんのご協力のもと、「はらぺこ農園」をオープンしました。苗植えや収穫体験など、食育を含めたワークショップを開催しております。

活動としましては4年半くらい経ちますが、段々と私たちのような活動を知っていただき、食材の提供など、地元の応援企業が増えて参りました。「はらぺこ食堂」を運営していることは、子どもたちの笑顔はもちろんのことですが、幅広い年代のボランティアさんや参加してくださる親御さんたちとの世代間交流の場となっていること、また地元の方とのつながりや優しさなど、皆様に支えられながら運営できているということを実感しております。

また、「はらぺこ食堂」には固定した場所がないため、毎月開催場所が変わります。地元の社会福祉法人様、農家様、お寺様など様々な場所を提供していただいております。御殿場市内の様々な場所で開催することで、地域で子どもを育てるということも大切ではないかなと感じております。御殿場市内では現在の4か所の子ども食堂があります。

この活動はSDGsの理念である、誰一人取り残さないを具体化した活動です。御殿場市役所様、御殿場市社会福祉協議会様、御殿場・小山フードバンク協議会様を始めとし、地元の方々に支えながら今後ともこのような活動を継続するためにも、食材のご寄付にご協力いただければ幸いです。

拙い話ではございましたが、本日はありがとうございました。

**【川勝知事】** 素晴らしいなということで、申し上げることはないぐらい、本当に良い活動されておられまして、そして最後の方で地域の子どもは地域で育てると。もう1つは誰も取り残さないと言われましたが、まさにSDGsの理念が「はらぺこ食堂」に生きているということですね。そして、何しろ今、コロナの中で非常に困っている大人がいて、お父さんお母さんが困って、中々お金が入らないと子どもがひもじい思いをする、それを助けないといけないというのが子ども食堂の理念です。

一方で、いわゆる食材を沢山作って、コンビニなどで売っているわけですが、期限が過ぎると捨てるとか、売れないと捨てるとかありますが、あまりにももったいないので、これをどういうふうにするかというアイデアがございまして、皆で困っている人を助け

ようと。その内で一番尊い仕事だと思いますのが、この子ども食堂ではないかと。

はらぺこになってぶらっと寄ってスマイルだということで良かったねと皆で楽しく遊びながら、そしてお腹を膨らませて、また大人同士が交流するとおっしゃったじゃないですか。ですから学校でだけでなく、なんと地域の人知らぬうちに子どもを教育しながら、皆さんのネットワークも出来上がっていくと。

もう一つすごいと思ったのが、通常1か所でやるのですが、発言者1さんは場所を変えているとおっしゃったんですね。農家であったり、お寺であればこれは寺子屋ですね。ですからお寺さんの住職さんの優しさというのがあるでしょう。公民館もお使いになっているということですね、私はこういった皆で助け合おうと。こちらははっきり言いますと、ご飯があったら何もいらぬという人は沢山いらっしゃいますよね。あとは全部おかずですから。主食とおかずというのが日本ですから。水かけ菜のようなものがあったら、それで他に何もいらぬということですね。また水かけ菜がおいしいのは水がいいからでしょ。その水がいいからこちらの高根のわさびというのは、最高級だということをお先ほど市長さんから教わったのですけれども、これはしかるべき最高級の料亭に行っているんだということは、水がいいと。

また景色がいいですから、富士山がありますので。そして農地があると。農地は担い手が少なくなって困っているのです、その所を皆で農園で耕すとなれば、農地の有効活用になりますから、全体として子どもを助けながら、皆で地域をよくする運動に、この4年半の間に育っていったと。

これはまたさらに大きく変貌していくのではないかと。いかにもそういうパワーというか、善意とエネルギーに溢れた発言者1さんですから、この輪は広がっていくんじゃないかというふうに思います。言い換えると場所が変わるということは協力してくれる方が増えているということですよ。

ですからそういう意味で御殿場市民全体の活動に広がると。今子ども食堂が4か所ということで、それぞれ理念があってやっているとありますが、いいところ取りをしてそれぞれの場所に合った形で、子どもを中心に育てていければいいということで、この取組はここでしかできないものかもしれませんが、考え方としては、どこにでも適用可能なことだということで、感心しながらお聞きいたしました。

【発言者2】 改めまして、御殿場高原時之栖の発言者2と申します。今日はよろしく

お願いいたします。あまりかしこまった話し方が得意ではありませんので、少し砕けた話し方になるかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。

スライドの方も用意させていただいたのですが、こういった機会をいただきまして、まずはありがとうございます。

私が、会社として今実感しているところを簡単にお話しさせていただきます。

県の方に是非これをお願いしていきたいというものにつきましては、後ほど詳しく述べますが、関係人口とのつながりの場を積極的に作る動きをしていただけると非常にありがたいなと思っています。同時に県の職員の皆様にもそういった場に積極的に出ていただけるような、そういった環境作りをしていただけると非常に嬉しいなと思っています。

スライドの方で少し簡単に、なぜそう思うかというところをご説明させていただきたいのですが、我々としては今、関係人口とつながりの場等、未来を想像する実証実験リゾートというテーマを掲げてこれから取り組んでいきたいと思っています。

写真は、富士山が非常にきれいに見えて、楽天トラベルで富士山が見える宿ランキングで、我々の施設は全国でナンバーワンということで、いただいた資料でございます。時之栖としては、ワーケーションを推進していく中で、非常に沢山の域外の方とコミュニケーションを取る機会というのが、昨年1年間かけて非常に増えてきました。その中でやはり色々な新しい価値だったり、地域の課題を解決するヒントだったりとか、そういったことが生まれるというのを広く実感してきた1年という形でございます。

時之栖はどういった施設か簡単にご説明すると、まず、1500人泊まれる色々な宿泊施設を持ち合わせています。そしてコワーキングスペースもできて、貸会議室も20か所ぐらいあります。

地ビールの先駆けとして展開してきまして、長い間愛され続けています。御殿場コシヒカリというお米を使ったビールも弊社の特徴となっています。温泉とサウナもあり、冬のイルミネーションは全国で第3位、圧巻の噴水ショーは高さ150メートル、これは日本で一番と。あとはアクティビティ体験から近未来の乗り物まで、揃っています。時之栖はこういった施設でございます。

そんな中、観光庁の事業を去年やらせていただきまして、ここで19社37名の域外の方とコミュニケーションを取る機会をいただきました。

そして自社で独自でワーケーションのモニターツアーというのを開催して、ここでは

60社188名の方にご参加いただいて、焚火を囲んで未来を語らうということを行いました。

そして、そこから第1回、第2回とワーケーションのナイトピッチという場所で夜に屋外でピッチをやると、プレゼン大会をやるという形のものなんですけれども、こういった活動をさせていただいて、ここに東部地域局の方だったり、御殿場市、裾野市の方々にもご参加いただいて、両市の交流の場ということで非常にここから新しいビジネスも生まれてきたということがございました。

第2回は先日コロナ禍において、3月4日だったんですけども、ここもやはり60名くらいの方たちにご参加いただいたという形です。

これまでどんな取組をしてきたかというところの部分で、この関係人口の方々とやったことに関しては慶応大学さんと御殿場市さんと一緒に自動運転の取組をやりました。

そして中小企業庁の補助金を使って、関係人口との副業人材の活用の取組をしました。

そしてガストロノミーツーリズムというのは、地域の食と文化を楽しむというところで、これも観光庁の事業でやらせていただきました。

あとは、自転車の取組、これも御殿場市さんと一緒に今進めています。そして、慶応大学さんと御殿場市さんとドローンの取組を今やっています。あとはトレイルランの国際大会という取組をさせていただいております。

ということで、こういった新しい取組というのは域外の方との交流から生まれるというのをこの一年をかけて非常に実感しましたので、その中には、県とか市のまちづくりの観点であったり、観光の観点であったり、ビジネス・教育の観点、こういったところで広くいろいろな所ですが大事だというふうにも実感しておりますので、是非そういった場をこれから作っていただけると我々としてもありがたいなというふうに感じております。以上です。

**【川勝知事】** 時之栖さんは、御殿場では有名なものがいくつもありますが、アウトレットに次ぐところです。

先代が亡くなられて本当に残念でしたけれども、当代もスポーツ協会の副会長、私も会長を仰せつかっておりますけれども、仲良くやっております、スポーツ関係はですね、東日本大震災でJFAアカデミーというのがあって、あそこは汚染されたために、子どもたちが行き場がなくなったんですね。その時にああいう先代さんですから、

言ってみたら、うちが引き受けると二つ返事でした。ですからこちらで引き受けていただいて、今福島県知事をやっている当時の副知事だったんですが、お礼に来られました。

そして女の子たちがこちらで富士山を仰ぎながらプレーをしていたんですね。そして彼らが学校に通えるような算段もしてくださってですね、これもいってみれば関係人口ですね。向こうの本拠があるけどこっちに来るといふ。そういうことをされていた方です。

それから冬のイルミネーションですね、12月の下旬に、先代からこれは見るに値するから来いということで、寒かったんですけども見てるとその寒さを忘れるんですね。忘れるだろうと言われました。こういうものすごく企画力というか、包容力というのが時之栖の売りではないかというふうに思うわけでございます。

そして、リゾートとおっしゃってるでしょう。私は都会の人にとってこの地域は別荘地もございませし、温泉もあるし、樹空の森ですね、あそこは温泉施設がありましたよね。一時期あそこにひよっとすると、富士山世界遺産センターを持ってくると、九つくらい候補地があつてそれぞれ回ったんですが、あそこも候補地の一つで、結果的には富士宮の方に決まりましたが、その施設は景色もいいし、申し分ないところだと思ひますけれども、そうした意味で、このリゾートというものがあるわけです。

実は、福島で大震災が起こって、行き場のなくなった人がまだ4万人くらい戻つてこられない人がいるんですね。双葉町だったり大熊町だったり。そういう人たちがいらつしゃると。そこでどういふふうにするかということで、福島に本拠を置かれていふお寺がございまして、福聚寺といひますが、そのお寺の住職は作家です。慶応義塾出身の方で、その人は福島第一原発から内陸の方に40キロほど行つた所にある有名なお寺なんですけれども、福島代表として、どういふふうにして未来を創るかといふ、政府の委員会の中で、福島全体をリゾート、医療、福祉、研究、スーパー特区にしてくださいと提言されたんです。

私は、実は去年だつたと思ひますけれども、その発言がちょうど10周年といふことで、新聞に載りまして、ご本人に会いに行きまして、それは残念ながら当時の政府は聞いてくれなかつたといふことで、それでは、それをいただきますといふことで、それでリゾート、医療、東部にはがんセンターがありますから。それから福祉ですね。そして研究と。これは東部全体で見ますとがんセンターの研究もございませし、慶応義塾のご出身の山口建先生が、20年間総長を務めていらつしゃるわけでありませ。それから遺



伝学研究所があります。それから温泉もですね、なぜ温泉に行くと皆元気になるかと。これを科学的にやっ払いこうという、これはI C O Iプロジェクトという、これは研究になります。そして特区にすると。

そしたら偶々、岸田さんがデジタル田園都市というふうに言われて、今どちらかというところ、デジタルの社会実装を図るところに彼の力点があります。つまり5Gとか光ファイバーを引くと。それから、それを教えることのできる人材を200万人くらい作るというそういうところなんです。けれども、ポイントは、田園都市にあるわけです。

これはもう百年以上の歴史があつて、これは人間の理想とされてる所です。

だから僕はエコガーデンシティと言ってるし、実はさっき言った山口さんのファルマバレーは、メディカルガーデンシティと言っているんですよ。それから三島はガーデンシティ三島と言っているわけです。

それから裾野に未来都市を作られました。それは景色がいいからというので豊田章男さんが、ここに作ると。未来都市はウーブンシティと言ってますけれども、富士山を借景にした、きれいな所はガーデンシティなんです。

ですからここはまさにデジタル田園都市をリゾート、医療、研究、福祉スーパー特区にするのに最も最適だということで、私は全国知事会で3回これを提言しております。これを一緒にやっているのがそこにいる知事戦略局長で。東部をですね。

そしたら、なんと五條堀孝という大先生がいらっしやいまして、この人は三島市の国立遺伝学研究所の有名な先生であまりに有名でレベルが高いので、ノーベル賞を取っていませんが、遺伝学でたった一人ですね、ローマの法王庁のアカデミーがあるわけですが、80人ぐらいメンバーがいて、最高の学者が集まっています、そのうち40人くらいは皆ノーベル賞を取っているわけですが、その遺伝学というのは宗教とどう関係するやらという感じがありますが、初めて入った人ですよ。その人がですね、法王庁に入ったということで、サウジアラビアの国王様が彼のために大学院を作ったわけです。他の先生方も呼んで、全部タダです。世界中の若い青年たちをタダで研究させると。そのうちですね、五條堀さんあなたはどこにいるかと、富士山があそこでここだと。サウジアラビアの大金持ちたちが行ったことがあると。それであそこは天国みたいな所だというわけですよ。それで、五條堀さんが去年か一昨年に、富士・箱根・伊豆国際学会を立ち上げられたんです。

だから山梨県から神奈川県を含み、そしてここを通過して伊豆ですね。遺伝学関係ない

です。富士・箱根・伊豆で、国際学会、学際的、国際的、総合的な研究をしながら、リゾートのエリア、これが世界の人々の憧れになっている。

こういう背景があってですね、時之栖がやっぺらっぺらすることは実はそういう大きな流れとマッチしてるんですよ。だから私はここは、この神奈川県の一部を含み、また山梨県の甲府盆地ですね、あそこはふじのくにの奥座敷だというふうに思いますが、そっからずっと今簡単にこっちに来られるし、そして伊豆半島の温泉地にも行けると。そして箱根を越えれば、足柄山を越えればこちらですから。これは、間もなく開通しますと、それができますので、ここは本当に中心地になるなど。だから関係人口が増えてきて、それは未来を拓くということで、時之栖は関係人口を増やしてつながりの場を提供して、未来を拓くといっているわけです。これは時之栖の未来を見る目ですよ。それを今あなたはどんな立場でいらっぺらっぺらるんですか。

**【発言者 2】** 営業部長です。

**【川勝知事】** 営業部長殿がやっぺらっぺらるのです。ですからここで営業部長の言われるところは、御殿場の可能性を、場の力を踏まえて提言されているということだと思います。

私も、そういう方向で、今日の新聞か昨日のNHKで言っていたと思いますけれども、2020年、2021年と移住者が過去最高を更新しています。2020年は1,398人が移住してこられました。去年2021年は1,868人が移住してこられました。そして、今は三島が中心なんですけれども、つまり東部が中心なわけですね。

知識が増えますと、やっぱり景色がきれいな所、水がきれいな所、都会に近い所となっていくます。ですからこの場の力が非常に大きいと。そして、もう一つ重要なことは、10代、20代、30代、40代、50代、60代、70代、80代で、どういう人が移住しているかということ全部統計を取っているわけです。そうすると30代が34パーセント、20代40代を合わせると80パーセントを超えているわけです。これは2020年もそうでした。2021年もそうです。子育て世代が来ているんです。ですから子育て世代は非常にお金がかかります。ですから我々は都会ではどうしても定住できない、都会はビルの森です。いわばコンクリートジャングルです。ここから外に出れば、緑の本当の森ですよ。ですからこの裾野で未来都市を作った章男さんはお隣の御殿場市にモーターフォレ

スト、フォレストガーデンです。しかしそこにあるのは、最高級のホテルと、それから車の博物館ですね。車の文化施設を作っていきたいと。すぐそばには自転車の競技が行われた富士スピードウェイがありますから。自転車はCO<sub>2</sub>を出しませんので、坂は年寄りや足の悪い人は漕げませんが、今E-バイクというのを作っていて、E-バイクを一番多く作っているのは静岡県ですから、これからE-バイクは発展していきます。ですから、坂の所はE-バイクの力を借りて登ればいいし、遠距離もE-バイクで楽しめるという時代がやってきます。

それを先取りして、自転車をやりたいと言っているわけですね。時之栖の背景に何かあるか知っていますか。お寺があるんですよ。ありがとう寺という名前です。これを作っているご住職が確か京都出身で広島大学で博士号を取って、アメリカで法然の研究で博士号取って、その人があそこに寺を作ったと。私は友人ですから行ったわけですよ。そしたらここに鎌倉の大仏を抜く大仏を作るんだと言っておりました、富士山と対面してもらうんだと、途方もないことを考えておられて、そういうことをですね、先代は許しておられたんですね。ホテルなのか、お参りする所なのか、それから護摩をたく所があるんですよ。それからヤギがいました。2匹。メーとやってみたら答えてくれましたね。人懐っこいわけです。高い声でやるとですね、答えてくれるわけです。そういう人が関係人口として来てるんですよ。

彼の部屋に行ってみてください。そうするとすごい家具ですよ。その家具は全部寄進されたものです。これはどこどこで寄進されたものですよと言っていましたね。だから全然お金を使わないで、そして大きな敷地の所で、ゆっくり上って行って、そうすると富士山がバーンと見えるように作っているんですね。そういう面白いことが起こっていて、ですから未来を拓くというのはですね、皆さん共有してみればいいのではないのでしょうか。皆の力で拓いていけばいいと思いました。ありがとうございました。

**【発言者3】** ご紹介いただきました 御殿場市消防団女性部部長の発言者3と申します。ご紹介いただきましたとおり、私は消防団員としての立場と介護事業の経営者という立場の二つの側面があります。本日は、双方の立場から、消防団女性部の特徴的な活動内容の紹介と福祉と防災について感じたことをお話しいたします。

初めに、本業の介護事業所を熱海市でも運営していることから、昨年の土砂災害の際にお聞きした現場の声をご紹介し、福祉と防災についてお話しいたします。

災害の際に地域から聞こえた声は「大きな土砂崩れになる前に何度か砂が流れてきた、あの時皆で声を掛け合って逃げていれば。」「家は無事だったけど、規制ができ援助が入れなくなったことで、生活が成り立たなくなった。」「ホテルに避難できてありがたいが、孤立してしまっている。」「地域の福祉関係者が支援に入りたいと申し出ていたが、活動できるシステムが構築されておらず、活動の機会が設けられなかった。」といったものでした。

このようなお話から、互助・共助の力の大切さ、規制区域内の活動制限による生活への影響、避難所のあり方、大きな機関と地域福祉の連携などの課題があるように思いました。

また、救助現場の方からは「派遣されてくる消防署の予算の状況により、余裕を持って活動できる隊と、仕事時間を計算しながら活動し、余裕のない隊がある。」「自衛隊・警察・消防などの指揮系統は別々のため効率が悪く感じた。」「消防団は協定を結んでいなければ、市町を超えて活動することはできない。」「ボランティアの登録はしたが活動の機会がない。」などのお話を聞きました。

このことから、異なる立場の権限の相違、消防団の活動範囲、ボランティアのあり方などの課題があるように思いました。

私はこのような声から、自助・互助・共助、そして誰もが何があっても住み慣れたまちに暮らし続けるしくみである地域包括ケアシステムの重要性を感じました。

防災と福祉は、常に一緒に考えることで力が発揮されるのだと思います。県や市町のそれぞれの担当者が、防災・福祉のどちらにも精通し、市民・県民の命と生活を守ることができたら理想的だと感じます。そして、自分たちにできることは何か、消防団女性部としても考えていきたいと思っています。

そして次に、私たち女性部が、全国に先駆けて行っている特色ある活動内容を二つご紹介いたします。

一つ目は、災害ボランティアセンター本部への協力について、きっかけや経緯などをご説明いたします。

御殿場市に災害ボランティアセンターが立ち上げられた際は、集まってくださったボランティアの皆様が安全かつ効果的に活動できるよう、女性部として、毎年1月に行われている立ち上げ訓練に参加しております。

きっかけは、2019年の台風19号、小山町の特別養護老人ホームでの土砂崩れです。

私は、小山町のボランティアセンター本部でお手伝いをする中で、本部でなら消防団女性部として継続した活動ができるのではないかと考え、まずは小山町の社会福祉協議会様のご厚意で、女性部数人が本部の仕事を体験させていただきました。その中で、御殿場市の社会福祉協議会様にもご相談し、現在のような形を作ることができました。この活動を通じ、女性部員自身が、自分の身は自分で守り、共助・公助に参加するという意識も高めることができました。

二つ目は、女性部と板妻駐屯地様との連携についてです。

御殿場市には、静岡県を災害から守る 板妻駐屯地第 34 普通科連隊があります。熱い心のご担当者様のお陰で、実践的な活動を想定しながら定期訓練を重ね、顔の見える関係を構築しています。きっかけは、災害支援の激励や情報交換等から、御殿場市で災害があった時、一緒に何かできないかとお話することができたことです。

ご協力いただいている皆様のご指導を受け、今後の活動を進展させ、幅を広げていきたいと考えております。このような地域での活動を是非知事にも知っていただき、応援していただけますと励みになります。

私自身、それぞれの立場で災害に向き合った時、「立場ごとの感じる課題を協働して解決につながるようなシステムを熟成させる。」という理想を実現するため、自分のできることは何か、日々の活動を通じ、考えていきたいと思えます。以上となります。

【川勝知事】 ご立派ですね。感心しました。

消防団はなんとなくですね、男性の世界、そういうイメージが強いわけですね。10年ほど前は、静岡県には消防団が、2万人くらいいらっしゃるわけですが、女性団員は200名おられて、今は発言者3さんのような方が増えてきて、それでも400人前後ではないか思います。もうちょっと増えてきたかもしれませんが、やはり1割くらいは女性の方たちがいるのがいいと思います。やっぱり力仕事だけではなく役割分担というのが現場でできますので、被災されている人は、男性も女性も子どももご老人もいますから、したがって、女性が救援の消防団の中に入ると全然違うというふうに思うんですよ。ですから女性は本当にまず頑張ってもらおうと。そして、防災に関わる消防と福祉というのが密接不可分だというのが、発言者3さんの優れたところですね。

しかも熱海にそういう施設をお持ちで、今回本当に厳しい悲劇が起こりまして、27名の方が命を落とされた。その住まいを無くされたので、ちょうどあと一か月ちょっ

とで一年目を迎えると。ご承知と存じますけれども、一年目というのが被害を受けた方にとっては、それがよみがえってくる時なので、場合によっては命を絶たれる人が出るそうです。それからもう一つは三年目だそうです。三年目になって、希望を持ってないというふうに思い込まれるとですね、やはり自ら命を絶たれる人が出てくると。そういう人にどう寄り添うかということがですね、いわゆる仮住まいの場所があるとかそういうことだけではダメなんですね。ですから、福祉の専門家がいらないといけません。

今回の熱海の場合、もちろん土石流で500人以上の人が最初は避難されましたが、偶々あそこはホテルがあったので2か所に分かれていらっしゃったのですが、コロナ禍の中ですので、密接してうつると具合が悪いというこれは複合災害だったのですね。ですから、まず優先的に避難されている人たちにワクチンを接種すると。これも初めてのことなので、順天堂大学ほか、医療関係者の人にご協力いただいて、熱海市の方は現場で大変でしたから、県と病院とそれから被災者の方たちのご協力を得て、感染者が被災者から出なかったわけですね。ですからどういう形で被災するか分からないというのがあります。

そうした時にプロがいるというのが大事で、基本は助け合いなんですね。互助、この互助精神、相互に扶助し合うというのは日本の伝統だと思います。なぜボランティアとかといいますが、1995年の阪神淡路大震災の時に、神戸が大きく被災しました。あそこは港町ですから、国際的な所ですから、神戸の名前を知らない人はいませんので、したがって多くの外国人の記者も外国人も来て、そしたら人々が略奪をしないわけですね。皆が秩序正しく救援活動をしているというので、ボランティアという言葉が外国人が使ってそれを報道したわけです。その結果、ボランティアという言葉が日本に定着してボランティア元年と。そしてそれを組織化したNPOというものが出来上がって、それを法整備されると、そういうふうになっていきましたが、根っこにあるのはもともとはお互い地域の人たちが困っている人を助け合うというわけです。

さて、助けるのに最後の命綱は自衛隊。これは命懸けで助けに行かなければいけませんので。そして消防とか、警察とか自治体とか、公助が入っていくわけですが、ここは34連隊があると。静岡県は自衛隊と住民との関係が最もいいと言われている所です。具体的には御殿場・小山の方々が自衛隊員との生活をされていますから、意思疎通ができていますということ。そして東日本大震災で10万人の自衛隊員が救援活動に入りました。その時に御殿場の市民が、近隣の人たちが残されている家族を助けたわ

けじゃないですか。それから小山町の災害の時に34連隊の方たちが来まして、昼夜を問わず、一人の犠牲者も出さずに救助したんですね。

熱海においても自衛隊が行きました。しかしながら、もちろん自衛隊さんと消防と警察とそれぞれ役割が違う。この役割をどのように連携させるかというのは中々に難しいと。土地勘がない方も来られますからね。ですからきちっとしないといけないわけですが、最終的に地域住民が常時入らないといけないわけです。なぜなら土地の外から来て、ボランティアで助けたいと言っても、阪神淡路大震災の時は来られたために本当の救援隊が入っていけないとか、土地勘が分からないために何をしたいか分からない、そして夜になるとご飯を食べなくてはいけない、汗をかくとシャワーを浴びなければいけない、彼ら自身が困るわけですね。

ですから東日本大震災の時に我々は岩手県を助けましたけれども、岩手県を助けたいという静岡県民が沢山いたわけです。ですが、受け入れる準備がないのに行ったらかえって迷惑がかかるわけです。ですから向こうに行って経験を踏まえまして、遠野市がボランティアを受け入れるための施設を用意してくれたわけです。そこで汗だくだくになって戻ってきた時にシャワーを浴びられるとか、そしてまた食事はどうするかとか、そういうことがあって初めて、今度はボランティアができると。ボランティアで助けに行きたい、行ったらすぐ仕事があるというものではないです。ですから、ボランティアに行くことによって、また、ボランティア活動が持っている功罪、両方を知ってですね、初めて助けることのできる能力のある人、どういう助けることができるかということ区分して、こういうことしてください、ああいうことをしてくださいという役割を分担すると。そのためには、コーディネーターの人が要るわけです。今、熱海には被災者の心に寄り添う、鈴木まり子さんという浜松出身で、自分の家に帰れない人たちがどういうふうにすると心を落ち着いて過ごせるかという専門家がいないとですね、悲劇が大きくなるわけですね。ですから、こここのところの問題提起をされておまして、こういう発言者3さんのような方がいらっしゃるというのは、御殿場市は先進的だということでもあると思いますが、出されている問題について、うちの危機管理部もご要請があるべく女性の職員を入れてくださいと。今のところはですね、部長さんも危機管理監も男の方です。

これは、中々すぐには行かないことではございますが、しかしながら、避難所の経営といった時には、乳飲み子を抱えている女性もいらっしゃるし、子どもも泣きますか

ら、女性と男性とを分けるとか、子どもがいらっしゃる人をどうするかとか、こういう避難所の経営といいますか、それはホテルと違うような所では、それなりの工夫ができていないといけないと。したがって、ここで言われている災害ボランティアセンターの立ち上げは、初動体制はそういうプロがいるとささっとできますけれども、できないとかえって混乱するんですね。

皆様、ご存じないかもしれませんが、静岡県は一か月に1回くらいは何らかの訓練をしているんです。一度熊本で震災が起きました。あれは4、5年くらい前ですね。それで私どもは嘉島町という熊本市の隣町に行きました。そこは小学校が2つ中学が1つ、高校はありません。それで隣が益城町という大きな被害を受けた所です。その隣、熊本市と益城町の間にあるのが嘉島町です。そしたらですね、子どもたちが一生懸命、中学生ですが助けていたんです。僕はその生徒会の子どもたちに聞いてですね、素晴らしい、その君たちの経験を、これは御殿場ではなくて多分小山町だったと思いますけれども、静岡県の中学生に伝えてくれと言ったわけです。そうしたら来られたわけです。意見交換したわけです。夏休みだったと思いますけれども。そうしたら、うちの少女たちがですね、自分たちのことを、訓練の時にはこういうことをやっていますと。そうすると、それを嘉島町の中学生は感動したんですね。一度もやったことがなかったのです。だけれども、自分たちの考えでプランターを作って道の所に置いてお花で励ますとか、垂れ幕を書いて親へのメッセージを出すとかですね、自分たちの思いつくことを色々やったのですけれど。しかし静岡県は、各地の中学で中学生も高校生も訓練に参加して、何らかのことをルーティーンでやってるつもりなんですけれども、やっているのとやっていないのでは全然違いますから。

実際に本当にレベルが高い。特に御殿場は自衛隊がありますから、自衛隊とこの女性部が連携をするというような、ここでしかできないのではないのでしょうか。ひょっとするとこれは、ものすごく可能性を持ったことをなさっているのではないかと。そういうふうに思いますね。ですから、自衛隊への理解も深まりますし、自衛隊の方たちが自分たちでやっていることをご説明されるんですね、ある一定の時に引き上げますからね。引き上げないとですね、国防もしなくてはいけないでしょう。いつ有事になるかわからないわけです。ですからあまり長く空けられないんですね。すごいですよ。撤収する時は、まだ全部見つかっていなくても、ここからパッと撤収するんですね。ですから、役割を明確に持ってきてるんです。こちらが要請をして、役割を決めて、終わったらすっ



と撤収する。こういうのと、何も知らないで行くのと、これは天地の差があるわけですね。差し当たって、こういう女性部で消防の部長をされているということで、女性の観点でしか分からないノウハウがあると思いますので、これはそれこそ、35市町の女性部がそれぞれ部員がいますので、それに役に立つというふうに思います。横の連携をつなげていただく。

それからまた、熱海で今、いくつか気付かれたことがあるということですので、これは、こういうことは二度とあっていけませんけれども、似たようなことがあった時にどうしたらいいかということにつなげていくことができるというふうに思いながらお聞きした次第です。たくましいですね。これは本当にありがたいことです。ありがとうございます。

【発言者1】 私どもは御殿場市で子ども食堂を開催するにあたって、特に助成金とかがない中で、4つの団体でしているんですけど、是非御殿場市さんとしても助成金など、ご検討いただけるとありがたいかなと思っている次第でございます。よろしく願いいたします。

【川勝知事】 そうですね、年末に赤い羽根の運動というものがありますでしょう。

あれは皆さんのご厚意によって、高校生も含めてですけども、それぞれができる志で、今、はごろもフーズの方が赤い羽根の運動の中心でやったださっているんですけども、子どもたち中心の寄付をやっているんですね。それで彼が築いたのは、子ども食堂とか、午後の子どものたちの居場所、そういうところですね。それで子どもの誕生日を聞いて、誕生日にケーキを送るんですよ。これはもう感動的な話です。それから、はごろもフーズはフーズですから、それ以外のこともやってらっしゃるので、この県共同募金会の会長にですね、言っておきましょう。それが仕事ですから。人の困ってるのを助けるために全県の県民の方たちが寄せられたお金を有効に使うのが仕事ですから。もちろん市や県で公金を使うべきちゃんとした理由があれば、それは出しますし、差し当たって今ふと思ったのが、会長に今度あったら言っておきます。そういうことが、できるかどうかですね。

【発言者2】 この場で発言して良いか、恐縮なのですが、これは知事にお願いして良

いかどうかあれなんです、メタバース推進協議会というものがこの間立ち上がりまして、養老孟司さんがトップで、その次に元観光庁の長官をやられていた溝畑さん。一度、実はサイクルツーリズムの関係で、こちらにもお越しいただいたことがあるんですけども、その方々が務められていて、知事とすごく近いということでもった記憶がありまして、実はその協議会自体は会員制度になっているんですけども、紹介がないと特別会員には入れないということがありましたので、実はこの間、メタバースの実証実験をやったこともありましたので、その協議会に直接お問合せしようか悩んだのですが、今回はチャンスじゃないかというふうに思いまして、ご紹介いただけるような糸口がつかめないかなと。

**【川勝知事】** メタバースについて少し説明をお願いします。

**【発言者2】** なんとというか、簡単に言うと仮想空間になるんですけども、将来的には多様な価値が認められる世界になっていくというところの中で、それは仮想空間で実験できるという解釈で私はおりますけれども。

**【川勝知事】** 観光でどういうふうに活かすのでしょうか。

**【発言者2】** 観光にどのように資するかということについては、私も実は答えは出ておりません。

この間、移動の高付加価値な体験を仮想空間で実験していただいたんですけども、非常に高付加価値な体験になったと思います。ただ、それ自体が今後観光にどう派生していくのか、それは全くイメージできてないところがありますので、その部分は引き続き追いかけていきたいと思います。

**【川勝知事】**

そうですね。今こういったICTを使って、実際に訪れていなくても訪れたような、そういうことが経験ができる時代になりました。ですからデジタルの技術というのは、とどまることを知らないぐらい発達しておりますので、これをまず社会実装といいますか、そうしたインフラは、ハードのインフラとともに、デジタルのインフラを整えると

いうのはこれからは不可避だと思います。それをどのように使うかというのが、知恵を出すところです。

養老先生というのは、「バカの壁」とか、何かいろいろと面白い方です。あの人は小さな小さな昆虫の研究されているわけです。もともとは解剖学者です。それで、メタバースと養老さんがどう結びつくのかなと思ったのですが。

あの方は東大の医学部に行かれたわけです。それで解剖学者になったわけです。それでどうしてお医者さんにならなかったのかを聞いたら、「お医者さんは生きた人間を相手にする。解剖は死んでいるものを相手にする。絶対に裏切らない」と。こういう人ですよ。それで死者と、死体と対話をするんですね。知ってましたか。

それで彼は、小さい時にお父さんを亡くされているわけです。そしてお父さんの最期の時に最後の挨拶ができなかったんですね。それがトラウマのようになっていて、ある時それが地下鉄で、大学のもう研究者になられている時に、何が問題だったのかということが分かって、人目もはばからず泣いたと。そして、死というのは父の死、母の死、子どもの死、相方の死、恋人の死と、これはボディではないんですよ。つまり、いつまでも心の中で生きてるわけですね。主人を亡くされた、あるいは奥さんを亡くされたというのは、そこにボディがあっても、これは死体があっても解剖学者にとってはボディなんですよ。彼は分かっているわけです。これは、ある人にとっては自分の一部なんですよ。ですから近い人の死というのは、死体としては見られないと。けれども他人がどこかで亡くなられたと。それは、単なるボディ、物体だと。けれども死体というのは、そういうものとは心の中で違くと。心というのと、それから解剖というボディというをずっと考えてきた方です。

それとまた、溝畑さんがどう結びつくのかと。これもいわば、関係人口かもしれませんけれども。溝畑という人は、中学校、高校で野球に打ち込んでいました。要するに野球選手になろうと思ったわけです。ところが野球部にはもっと上手な人がいるわけです。それでしょうがないから東大に行ったのです。東大に行って、お父さんは数学の京大の教授です。それで法学部の周りの連中が皆官公庁へ行くから彼はしょうがないから総務省に行ったわけです。その後、大分県の部長になったんです。それで大分トリニータを作ったわけです。それで日本一にしたわけです。ところがそれも有名な平松守彦という一村一品運動を作った知事さんの所に行って、それを辞めたって言うんですね。そしてそれが突然こいつは面白いということで観光庁長官に、いわば彼の同僚だったような方

たちがあいつはおもしろいからと言って、観光には向いているのではないかということで、観光庁長官になったわけです。

それで、突然呼び出されて、いきなり先輩先輩と言われたわけですよ。そういう方です。高校の時に私が先輩だったらしいですよ。ただ10年も下ですから。会ってもいないわけですから。それで、先輩のためなら何でもやりますと言ってですね。それでオリンピックになって、自転車になって、そうしたら伊豆半島を自転車で回りますと言って、それで回って、ゴールを勝手に知事室に決めて、来られたわけです。

だから、養老さんと全然違いますでしょう。この二人がメタバースで一体になっているというのは、本当に面白いことだと。それを発言者2さんがですね、私にご両人ともよく存じ上げておりますので、コンタクトを取ることはやぶさかではありませんけれども、どういうふうに、発言者2さんという人はお二人に対して恋人のように思っていると、そういうことを言うとあんまりではないかと思しますので、ちょっと戸惑っているというのが正直なところです。

ごめんなさい。

**【発言者3】** もう一つ知事に知っていただきたいことがありまして、御殿場市消防団は多分、私調べなんですけれども、県内で消防団としては唯一、男女共同参画宣言事業所となっています。

また先日、御殿場市は男女共同参画都市宣言をしました。市長様を始め、市民協働課の皆様が非常に熱心です。しかしながら、防災の分野における男女共同参画の促進というところでは、中々目標達成が難しい状況です。御殿場市民の方々が、やっぱり興味を持って、女性も男性もいろいろな分野に参加していただけますように、消防団としても宣言事業所ということで名前を出させていただいて、団長を始め、皆さん頑張っているところです。是非またそのあたりも知事に知っていただいて、応援していただけますと、ありがたいなと思います。

**【川勝知事】** 知りませんでした。ですから今、消防団で男女共同参画宣言をしているというのは、おそらく発言者3さんがおっしゃったように御殿場市だけなんだろうね。これは大したことですね。よくやりますね。これはいい先進事例ではないでしょうか。なんでここは、そういう人が生まれるんでしょうね。富士山のせいでしょうか。美しい、

優しい、しかしもちろん厳しい自然ではありますけれども、そういうものを見てると皆で参加してやろうと、そういうふうになるのかしら。

よく分かりませんが、いずれにしても男女共同参画というのは、今や男女という2つの性ではなくて、いろんな、自分が生まれてきてから生物的な性とは別に、いろんな性で自分をどう考えるかという自覚が違うので、そういうものを認め合いましょうという時代になっておりますが、要するに性別を問わないで、しかし差し当たって、今まで男女共同ということはその十分ではなかったと。男が中心でしたから。これを男女共同ということで女性が入れるようにということがポイントですね。これはもう県でもやっておりますし、そういうことをなさっている企業を表彰したり、様々に男女共同参画を促進しているわけですけれども。消防団はですね、人数を増やしてくださいと言うくらいしか私の中になかったんですよ。一貫してそれを言い続けたわけですけれども、増えてはいますけれども、その先を行って、男女共同参画宣言をしているというのは、これは今、市政、市議会の皆様も含めて、そうした人たちの市民の代表ですからね、その人たちの後押しというのがあるということで。そういう意味でいい見本だなと。ちょっとこれはうちの方も、御殿場を見習ったらどうですかというぐらいのことは言いたいと思います。ありがとうございました。

#### 【傍聴者1】

ありがとうございます。傍聴者1と申します。本日は御殿場市にお越しいただきましてありがとうございます。知事が挙げておられる12の政策、アクションプランの中で、特に11番、「“ふじのくに”の魅力の向上と発信」という項がございます。ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックのレガシー継承によるスポーツの聖地づくりということで挙げておられますが、特に御殿場市はオリンピックのロードレースの開催地でございます、御殿場市としても「SPORTS TOWN GOTEMBA」ということでロードバイク、また空手、ゴルフ等のスポーツを中心に町づくりをするということで、頑張っているところなんです、県としてそちらの方のサポートを是非お願いしたいということと、知事のお考えとして、どのような形の今後のサポートといたしますか、お考えを持っておられるかをお聞かせ願います。よろしく願いいたします。

【川勝知事】 傍聴者1さん、ありがとうございます。これは全面的にサポートしたいということです。特にスポーツですね。御殿場は、ゴルフを含めて、老若誰でもできますから、ゴルフの学校を作ってくださいませんか。福井にあるんですよ。雪でしょ。ですけど静岡県は、一部は雪に閉ざされる所はありますけれど、冬でもプレーできますよね。

そしてですね、偶々ラグビーワールドカップとそれからオリンピック・パラリンピックの自転車競技が4種目のうち3種目が開かれたと。ラグビーワールドカップでは練習試合、テストマッチでは、前年にアイルランドの2軍と全日本でやって、大敗だった。その時に見に来られていた森喜朗さんという当時の組織委員会会長が、前半で「俺は帰る」と。隣にアイルランド大使館の方がいましたので、引き留めて、後半で2トライしたが、ダブルスコア以上で負けた。5万人入るスタジアムに、どこからこんなに沢山持ってくるんだ、駅からのアクセスも悪い。新幹線は掛川だ。いっぱい文句がある。ここはサッカー場じゃないか、ラグビーとはあれが違う、とかですね、全部クリアしてですね、そのアイルランド、世界の第2位を（本大会で）破ったわけですね。そうしたらアイルランドが静岡県を尊敬してくださって、ものすごい友情が生まれたわけです。このワールドカップをきっかけに清宮さんという監督が、女子7人制ラグビーチームのアザレアセブンを作ったでしょ。だから磐田というか、ジュビロだけのラグビーではない。それから、自転車は、こちらとは違って、ベロドロームで何とか来てくださいと。ものすごい運動をしたんですよ、私は。

もちろん最初は、東京オリンピックだからこちらで行うのは遠すぎると。だったら見に来てくださいと言ったら、森さんが見に来て、すごい所だねとびっくりしまして。

そして今度は、世界の決定権を持っている人たちが来てくださって、すごいと。そしていわゆるトラック競技とマウンテンバイクは伊豆で決まった。そしてですね、あとはBMXというのとロードレースがありますが、ロードレースは皇居辺りを何十周するというものだったが、ところが自転車の世界の選手たちが富士山に向かって走りたいと言ったんです。これはすごい話です、我々ではないんです。そうして、どうぞということになりまして、小山町の富士スピードウェイがご協力いただいて、ここを通るということになって、そしたら、プロチームのチームブリヂストンサイクリングが本拠地を静岡県に移転、令和2年にはレバンテフジ静岡が誕生したわけです。

そして、こちらでロードレースが行われまして、パラリンピックの杉浦佳子さんがロードレースのタイムトライアルで、50歳で、2つの金を取られました。この人は掛川西高校出身で、健常者だったが転んでしまったわけです。それで体がボロボロになりました。再起不能と言われたわけです。ところが、家が薬局で薬剤師になろうと思っていたが、身体不自由になった。だけど、パラリンピックというものがあるじゃないか、そしてそれで最高齢で取った。その思い出の場所がここではないですか。富士山ですね。そして、ロードレースで世界の人に送られた情景がありますが、景色ですよ。もちろん、選手が走っているのがメインなんですけど、その周りがあまりにもきれいで、終わったらなんと、自転車競技の国際協会の会長さん、今フランス人になりましたが、その方がこちらで国際競技をさせてくれと言ってきた。通常は、頭を下げて頼みに行くわけですよ。

ですから場の力ですね。そういうふうにつながっているわけです。これは受けて立とうと。今は国体ではなく、「国民スポーツ大会」に変わりますが、これは卓球にしても、全体で金メダルだけで10いくつだったじゃないでしょうか、銀銅メダル合わせて30弱ですよ、静岡県ゆかりの選手で。これは子どもたちに対するものすごい励ましになっております。

ですから、それぞれ地域の、私は空手と申し上げた、もちろんサッカーも盛んですね、そして自転車は言うまでもありません。ラグビーもできるようにと思いますけれど、そういうゆかりのことについて、「地域自立のための『人づくり・学校づくり』実践委員会」にも、スポーツマンに入ってもらっています。山本さん、この間まで清宮さんが入っていました。それから、聖光学院の校長をしていました星野さん、ラグビーの選手ですね。

ですからスポーツは誤魔化しがいいですね。勝つか負けるかですから。正直です。後進に方向を与えます。ですからどうしても敵わない、自分より優れた人がいる、追いつこう、ああいう人になりたいとか憧れとか、そういう人間を育む最良の分野だと思っております。ですから芸術やスポーツですね、通常は英国理社ですね、そこでしか学校は重視していない、文科省はそのようですが、静岡県は、文武芸三道鼎立ということで、昔は文武両道と言っていました。「文」は学問で、これは大切なものです。学問ができる人は尊敬する、と。「武」はスポーツですね。スポーツは下手で運動神経があまりない、けどスポーツを楽しむことが大事ですね。「芸」は芸術・芸能ですね。その中には、藤井聡太君のような将棋も入っているわけですね。あるいは、漫画に長けている人

もいます。今、里中さんが日経新聞に「私の履歴書」というものを書いています。中学の時に親の反対を押し切って漫画家になると決めて、高校は親の勧めで一応入ったけど、中退して。そうして結局、日本中の色々なファンを作っているわけです。あるいは海外で役者をやっている方など。ですから、文武芸同じように皆大事だと。富士山に登る口がいくつもあるように、スポーツそれから文化、こちらの施設にも見事な俳句が、単に書かれているのではなく表装して掲げられているではないですか。そうしたものを含めて、一人で全部できませんけど、県全体として、文武芸、すなわち学問、スポーツ、芸術も芸能も、得意な人が活躍できるような地域を作っていこうということで、スポーツはオリパラとワールドカップがございました。

そして学校もこれから、特に中学までは15歳ですから、そこで昔は元服で大人の仲間入りですが、中々そこで一人前にはなれません。だけど高校ぐらいには自我がありますので、自由にやった方がいいと。ある所は、それこそゴルフとか、朝は勉強する、午後は全部ゴルフをする、これが福井にそういう学校があるわけですよ。あるいは演劇のアカデミーもできました。うちは、世界の演劇の都と言われています。宮城聡という最高の監督がいて、47都道府県で演劇集団と劇場を持っているのは静岡県だけです。世界を席卷したわけですね。だから演劇アカデミーを作りました。日本中から来ると思っていますよ。そういう尖がった学校はやった方がいいと。だから、ゴルフなどどうですか。御殿場南高校とか。あるんですか。やってください。私は応援します。ただし、政治があまり介入するとあまり良くないので、応援するという事で申し上げます。

【傍聴者1】 ありがとうございます。